

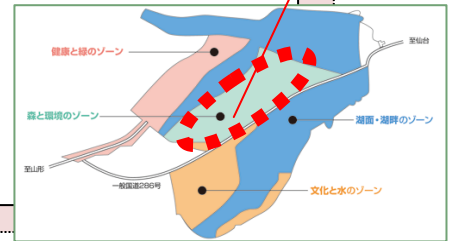


みちのく公園の森の楽園だより 第7回

みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



里山地区

10月24日(土) 里山の秋まつり!

里山地区では、里山がもっとも美しい春と秋にイベントを行います。今年の「里山の秋まつり」について、ご報告します。秋晴れの1日、いろいろな楽しみを体験していただきましたよ。

ものづくり体験

里山に生えている木や竹などを使って、いろいろなものづくりを体験します。

今年のテーマは「竹」。里山には、マダケ(真竹)とハチク(淡竹)が生えています。春にはタケノコ掘りで楽しみましたね。

竹の工作

竹はとても加工しやすいのです。

まず、竹を切って素材をつくります。さらに切って、竹の鉄砲、竹の花器、竹トンボと、各人が思い思いに作ってみました。



竹すだれ

最近、里山で流行っている「竹すだれ」。これもやってみました。

兄弟や親子が両側に立って、呼吸をあわせて、編んでいきます。



お花炭づくり

松ぼっくりや栗のイガなどを空き缶につめて、火にかけて焼いて、きれいな「お花炭」づくりもしました。



薪割り体験

丸太を割ってみたいというご希望にお応えして、薪割りもしました。

お父さんの助けでチビッ子が頑張っています。



里山の秋を味わおう！

食欲の秋を満足させたのは、里山名物の炭焼き窯を使った「ピザ」！これは絶品です。

朝早くから、里山のシェフが生地づくりをして、しっかり発酵させました。炭焼き窯は大きいので、予め火入れをして、窯を充分、温めておくことも大切です。燃料はもちろん薪です。

スープは、里山の小さな畑で収穫したジャガイモのコンソメ。

付け合わせは、青菜の間引き菜のお浸しと、もってのほか（食用菊）のお浸し。

デザートは、里山の柿の渋抜きをしたもの。今年、始めて採れた、蜂蜜をかけたデザートピザも大人気でしたよ。



ドングリの里親

かつての里山では、薪や下草が採取されて、明るく若い林が維持されてきました。伐採して切り株からは「ひこばえ」が生え、新たな幹が再生していました。里山の林を新しい林に再生させるため、木を伐採することを「皆伐更新」といいます。

里山地区の「ゴヨの森」ではこの「皆伐更新」を行って、昔ながらの里山管理をしています。

今では木が大きくなりすぎてしまい、木を切っても「ひこばえ」が育ちません。そこで、3年前から、ドングリの苗を育てて、里山に植え付ける「ドングリの里山」という活動をしています。

ドングリ拾い

ドングリとは、ブナ科の、特にカシ・ナラ・カシワなどコナラ属樹木の果実の総称です。

里山のドングリは、主にはコナラですが、ミズナラやクヌギ、カシもあります。



ドングリの植え付け

牛乳パックの土を入れ、ドングリを植え付けます。牛乳パックは植木鉢の代わりです。丈が長いので、根がよく伸びるのです。

ドングリの成長には光と水が必要です。明るい所において、水やりをしながら、2年間育てます。



ドングリ苗の植え付け

牛乳パックで2年間育てた苗を、いよいよ里山に植え付けます。植え穴を掘って、しっかりと植え付けて、草刈りの時に目印になるように、タンポールを立てて、完成。大きくなってね。